

2020年11月6日

各 位

会 社 名 セガサミーホールディングス株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長グループ COO
 里 見 治 紀
 (コード番号 6460 東証第一部)
 問 合 せ 先 上席執行役員財務経理本部長
 大 脇 洋 一
 (電話番号 03-6864-2400)

業績予想の修正および剰余金の配当（中間配当）の決定に関するお知らせ

当社は、2020年8月5日に公表した業績予想について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。また、本日開催の取締役会において、剰余金の配当（中間配当）について下記のとおり決定いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2021年3月期通期連結業績予想の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 277,000	百万円 △15,000	百万円 △20,000	百万円 △17,000	円銭 △72.31
今回発表予想 (B)	283,000	△1,500	△5,000	△24,500	△104.21
増減額 (B-A)	6,000	13,500	15,000	△7,500	—
増減率 (%)	2.2	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	366,594	27,643	25,296	13,775	58.65

(参考情報：2021年3月期通期業績予想セグメント別内訳)

(単位：百万円)

セグメント		前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)
売上高	合計	277,000	283,000	6,000
	遊技機事業	56,000	60,000	4,000
	エンタテインメント コンテンツ事業	214,000	216,000	2,000
	リゾート事業	6,500	6,500	—
	その他/消去等	500	500	—
経常利益 (※)	合計	△20,000	△5,000	15,000
	遊技機事業	△10,000	△10,500	△500
	エンタテインメント コンテンツ事業	11,000	24,000	13,000
	リゾート事業	△12,500	△11,000	1,500
	その他/消去等	△8,500	△7,500	1,000

※2021年3月期より、セグメント利益の測定方法を「経常利益」に変更しております。

2. 通期連結業績予想修正の理由

直近の各事業の動向を踏まえ、売上高・営業利益・経常利益が前回予想を上回る見込みとなりました。一方で、当社が取り組んでいる構造改革の影響により、特別損益の計上を見込むことから、親会社株主に帰属する当期純損失は増加する見込みとなりました。なお、事業別の状況、及び構造改革の取り組みについては下記のとおりです。

(遊技機事業)

主力パチンコ機『P真・北斗無双 第3章』の受注が好調に推移するなど、パチンコ機の販売は概ね堅調であるものの、利益率の高いパチスロ機の型式適合に時間を要していることから、一部タイトルの投入が翌期に遅れる見込みになりました。また、期末に向けては部材等棚卸資産の精査を進めているため、売上高は前回予想を上回る一方で、経常損失は概ね前回予想と同水準となる見込みです。

(エンタテインメントコンテンツ事業)

主にリピートタイトルおよびF2P（フリートゥプレイ）の各タイトルが好調に推移していることから、コンシューマ分野が前回予想を大きく上回る見込みとなりました。また、11月4日公表の「構造改革に伴う特別損失の計上および連結子会社の異動（株式譲渡）に関するお知らせ」のとおり、アミューズメント施設分野の構造改革実施に伴い、当該分野の経常損失が改善する見込みです。これらのことから、売上高・経常利益ともに前回予想を上回る見込みとなりました。

(リゾート事業)

国内においては、『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、引き続き団体旅行や法人需要の回復は低調であるものの、足元では「Go To トラベル事業」の効果もあり個人需要が回復傾向にあります。海外においては、『パラダイスシティ』において、7月以降一部施設の営業休止や固定費削減等を進めております。これらのことから、売上高は概ね前回予想と同水準となるものの、経常損失は若干改善する見込みとなりました。

(構造改革の取り組み)

11月5日公表の「特別利益（投資有価証券売却益）の計上に関するお知らせ」のとおり、投資有価証券の売却を実施したことなどから、通期で特別利益を75億円計上する見込みです。

一方で、上述のアミューズメント施設分野の構造改革実施や、本日公表の「希望退職者の募集および役員報酬減額に関するお知らせ」に記載のとおり、希望退職者の募集を行うことなどから、通期で特別損失を340億円計上する見込みとなりました。なお、これら構造改革による翌期の経常利益改善効果は約150億円を見込んでおります。

3. 2021年3月期中間配当の内容

	決 定 額	直近の配当予想 (2020年8月5日公表)	前期実績 (2020年3月期)
基 準 日	2020年9月30日	同左	2019年9月30日
1株当たり配当金	10円00銭	未定	20円00銭
配 当 金 総 額	2,350百万円	—	4,695百万円
効 力 発 生 日	2020年12月1日	—	2019年12月2日
配 当 原 資	利益剰余金	—	利益剰余金

4. 中間配当の決定及び期末配当について

配当については、従来通り安定配当の方針を継続するものの、直近の連結業績や、将来的な投資及びキャッシュフロー等を総合的に考慮した結果、中間配当につきましては前期実績の20円から10円減額し10円といたしました。なお、期末配当予想については、引き続き未定とさせて頂いております。今後の各事業の収益回復状況や構造改革の進捗を見極めた上で、改めて決定してまいります。

※本資料内に記載した業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上